



次で身だしなみへのこだわりを解説!

トラックドライバー日記

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送到るスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第17話 たかが制服、されど制服





おしゃれは「足元から」 安全も「足元から」

足元は人に見られるものではなく、自分で見つめ直すもの。
足をすくわれる前に、足元の確認を!



マンガ制作: tad-manga.com

身だしなみの良しあしは、相手が決める

第一印象である「見た目」が悪ければ、技術も正しく評価されないことがあります。
多様な考え方や感覚の違いがあるため、誰からも良いと思われる「見た目」を目指しましょう。



相手から良く思われる「見た目」になろうと整えるのが、「身だしなみ」。
その基準を超えると期待を超えることになり、相手に喜ばれます!

あなたの身だしなみ、意外と注目されています

服装の乱れは心の乱れ!
お客様は身だしなみから
仕事への姿勢を見抜いています。

運送業はサービス業であり接客業

商品を納めるだけでなく、フレームなく仕事をうまく収める。どのような積載物にも対応できるだけでなく、どのようなタイプの人にも対応できる。これらはプロドライバーに求められる条件だと思えます。そしてこの条件を満たすためには、身だしなみを整える努力により「第一印象で相手から不快に思われない」ことが必要です。それはなぜか? 第一印象は「見た目」でほぼ決まります。「見た目」の印象によっては相手の心象が悪くなり、何かにつけてフレームを誘発しかねないのです。

また運送業は、「見た目」以外にも求められるものが多くあります。例えばレストランで、お客様から切見えないように仕切られた厨房内で仕事をしている料理人は、衛生面に配慮した身だしなみであれば、そのほかには多くを求められないでしょう。しかし、店内でお客様の注文を聞いたり、配膳をしたり、お金を受け取るなどの接客をしている人は、身だしなみに加え、言葉遣いや態度など「見た目」以外の部分も重要になります。その印象が悪ければ、フレームの誘発やお店へのイメージ低下の要因になりかねません。

商品を提供しているのではなく、その行動自体が商品となり評価されるのがサービス業であり、それは運送業も同様です。運送業とは商品を作った人の代わりに、その先のお客様さまに届けるのが仕事であり、接客業の要素を含んでいます。受け取った人が感じる「送った人への信頼」や「商品への価値」を、皆さまの届け方によって高めましょう。

作業服と制服の違い

トラックだけでなく、常に着用している制服も仕事道具といえます。制服は、かつては「作業服」と表現することもあり、汚れが目立たない濃紺系が主流でした。しかし近年は、存在が目立つような原色系が多くなってきたのも特徴です。

作業服は汚れるもの。制服は汚さないもの。それが「作業服と制服」の違いだと思います。トラックも制服も社名が記載されていることから、企業イメージそのもの。汚れていれば、イメージ低下につながります。洗車と同様に、制服の洗濯も必須です。

服装の乱れは、危険を察知できるバロメーター

服装の乱れは心の乱れを表し、心の乱れは安全の乱れにつながります。しかし逆に「乱れ」は、身だしなみを整えることは安全に通じます。

身だしなみに取り組むのが面倒に感じるときは、何かしらのエラーメッセージがもたせません。つまり服装の乱れは、安全や品質の低下を事前に察知できるバロメーターと考えましょう。自身のエラーメッセージに気づいたら、誰かに気づかれる前に自分で修正できるのもプロと呼ばれる条件です。

また、髪やひげ、爪など「勝手に伸びてくるものを整える」のも身だしなみです。足元においては、ズボンの裾合わせや安全靴の履き方にこだわることも、安全と品質の両面から取り組むべき項目になります。



高柳 勝二 (たかやなぎ かつじ)

株式会社 プロデューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度より国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。